

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

水島を学びのフィールドにするために、倉敷市と岡山大学、倉敷商工会議所、水島の街づくりを行っている団体がコンソーシアムを2018年に結成しています。

これまで、水島で修学旅行や社会人の研修の受け入れ態勢を整えてきました。

事務局は公益財団法人水島地域環境再生財団(みずしま財団)です。

水島の価値を発信し、水島の学びを加速させていきます。

料金について

受け入れ費用	● 団体での受け入れ(1人以上40人未満) 1団体 60,000円(1日単位) ● 団体での受け入れ(40人以上) 1人 1,500円(1日単位)
所要時間	1コース 2.5時間程度 組み合わせ可能
最少催行人数	1人
最大催行人数	1コース 40人(コースの組み合わせにより、最大200人程度可能。要相談。)
その他	施設使用料が別途必要。バス・乗船代は別途必要。

SDGs 倉敷・水島プログラムのメリット

日本近代の開発によって作られた街である水島では、さまざまな社会課題が凝縮しています。1か所で環境・平和・災害・福祉を学べるのです。倉敷の美観地区に近く、組み合わせることも可能です。



研修実績 おかやまSDGsアワード2021優良な取組を受賞しています

大学 JICA中国(留学生)、大阪公立大学(大阪市)、龍谷大学(京都府)、北九州市立大学(福岡県)など

高校 立命館守山高校(滋賀県)、立命館慶祥高校(北海道江別市)、永島学園出雲西高校(島根県)、長崎県立松浦高校(長崎県)など

中学校 三木町立三木中学校(香川県)、岡山市立高島中学校(岡山県)など

社会人 SDGs体感モニターツアー、水島コンビナート夜景クルーズツアー、尾道市常任統計調査員研究協議会(広島県)、凱風館修学旅行(兵庫県ほか)など



問い合わせ先・事務局

受付対応時間 | 平日8:30-17:00

公益財団法人 水島地域環境再生財団(みずしま財団)

〒712-8033 岡山県倉敷市水島東栄町11-12

<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/>

TEL 086-440-0121 FAX 086-446-4620





環境・公害

公害からの再生を学ぶコース

■コース

倉敷市環境学習センター、または、みずしま資料交流館
↳ 鴨ヶ辻山(水島展望台)

■概要

水島の地域開発とそれとともなう公害の歴史、公害訴訟後の環境再生の取り組みについてを学びます。大気汚染の測定をしている倉敷市環境監視センターを見学し、鴨ヶ辻山より水島のまちと隣接するコンビナートを眺望します。



ものづくり

環境問題と産業の変化を学ぶコース

■コース

倉敷市環境学習センター、または、みずしま資料交流館
↳ 萩原工業株式会社、または、水島コンビナートクルーズ

■概要

元々はイグサの産地として有名だった倉敷。イグサを使った花ござ産業から、石油製品であるブルーシート製造へと転換した萩原工業株式会社は水島の変化を体現しています。プラごみ削減の取り組みも学びます。クルーズでは水島コンビナートの現場を海から見て学びます。



平和・多文化共生

平和と多文化共生について学ぶコース

■コース

水島勤労福祉センター → 亀島山地下工場

■概要

水島には岡山県内最大級の戦争遺跡・亀島山地下工場があります。軍用機の製作所が、空襲を避けるため作られた秘密の工場です。工場を掘ったのは朝鮮人労働者で、今も水島には在日コリアンが多く住んでいます。戦争遺跡を体感し、平和と人権の大切さを学びます。



災害・干拓

開発と災害・防災を学ぶコース

■コース

倉敷市環境学習センター → 板敷水門(日本遺産) → 千人塚

■概要

高梁川の河口部に位置する倉敷は、新田開発が活発でした。新田開発は干拓によって行われ、その樋門となった板敷水門が残されています。また干拓地ゆえにおこった、台風の高潮による水害で、536人を一晩で亡くしてしまった明治17年の水害と、無縁仏を埋葬した千人塚から、開発と災害の歴史を学びます。



まちづくり

まちづくりに取り組む人たちに会い学ぶコース

■コース

水島地域のまちあるき

■概要

水島には元気にまちづくりに取り組んでいる人たちがたくさんいます。コンビナートで働いていた人、地元の企業・商店街の人などさまざまです。商店街は以前に比べれば少し寂しくなっていますが、まちを再び活性化するためにどうしたらよいか。地元の人たちと一緒に考えましょう。



子育て・福祉

子どもの居場所づくりを学ぶコース

■コース

水島こども食堂ミソラ♪(ハルハウス)の見学

■概要

貧困や病気など、人生で困って孤立する場面に遭遇することは少なくありません。そのような状態になった時に、救いの手となるのが「居場所」です。子ども食堂の活動から、助け合いの力を学びます。

